

2019年度 日本文化人類学会
第6回理事会 議事録

日時：2020年2月15日（土）14：00～18：30

場所：東京外国語大学本郷サテライト5階

＜出席理事＞清水展、赤堀雅幸、綾部真雄、飯田卓、石井美保、石田慎一郎、伊藤泰信、木村周平、窪田幸子、栗田博之、佐々木重洋、高倉浩樹、棚橋訓、中谷文美、速水洋子、森田敦郎、森山工、箭内匡

＜出席監事＞鈴木正崇

＜委任状提出者＞風間計博、亀井伸孝、川田牧人、曾我亨、松村圭一郎

（監事）関根康正

〔報告事項〕

1. 代表理事報告

- ・日本学術振興会育志賞を本学会推薦の中村友香会員が受賞したことを報告。
- ・日本学術会議「第24期学術の大型研究計画に関するマスタープラン（マスタープラン2020）」において『『アジア人類史』総合研究体制の構築』が採択されたことを報告。

2. 庶務理事報告

- ・前回理事会での審議に基づき、澁澤賞選考委員の推薦を行ったことを報告。
- ・日本学術会議会員・連携会員の候補者情報提供依頼があり、総務会で検討の結果、6名の情報提供を行ったことを報告。
- ・WCAAのオンラインジャーナル *deja lu* に対し、前年度の2件の奨励賞受賞論文を送付したことを報告。
- ・第29回代議員選挙の開票日程とその後の手順を報告。郵送で理事予備選挙、代表理事一次選挙を行うことを確認。

3. 総務理事報告

- ・アイヌ研究倫理指針に関し、朝日新聞社北海道支局より取材依頼があり、アイヌ研究特別小委員会の太田好信会員が対応する予定であることを報告。

4. 広報理事報告

- ・前回理事会以降、会員連絡用メーリングリストの運用内規に基づき14件のJASCA-INFO配信を行ったことを報告。うち1件は学会誌の表紙用の写真の緊急募集に関する配信で、総務会で検討の上で配信を行ったことを報告。
- ・JASCA-NETで転送を促す文言を含んだ投稿があり、投稿者に委員長名で厳重注意を行ったことを報告。必要であれば、今後メーリングリスト利用のガイドラインを全体に周知する可能性もあることを報告。

5. 各種委員会報告

- ・『文化人類学』編集委員会：綾部理事より、84巻4号以降の進捗状況を報告。投稿規定および執筆細則の大幅な増補改訂について、3月1日を目途に施行予定だが、3月中は旧規定でも投稿可とすること、会員への周知については、学会ホームページへの投稿用テンプレートの掲載後にJASCA-INFOで通知すること、学会誌84巻4号で改訂の意義と経緯を含む告知文を掲載することを報告。
- ・JRCA編集委員会：佐々木理事より、Vol. 20-1、Vol. 20-2の進捗状況を報告。
- ・「国際情報発信強化」特別委員会：窪田理事より、昨年9月28日に開催された台湾人類学会に出席した際のビジネスミーティングで、双方の学会の研究大会においてパネルを組むことについて提案があり、2021年に予定されている京都大学における第55回研究大会に台湾人類学会から発表者が派遣される予定であることを報告。今後、科学研究費補助金による「国際情報発信強化」事業の終了後も、学会として国際シンポジウムや台湾、韓国の文化人類学会との交流を継続すべきとの方向性を確認。
- ・国際化グローバル化対応委員会：窪田理事より、会長代理としてアメリカ人類学会の年次大会時に行われたWCAAとIUAESのミーティングに参加したことを報告。
- ・研究発表査読委員会：査読が完了したこととその結果を報告。
- ・研究大会実施委員会：木村理事より、①第3回サーキュラーの公開等準備状況、②新型コロナウイルス流行の現状に鑑み、懇親会等が中止となる場合のシミュレーションの実施、③大会ホームページの英語での情報の拡充を次期委員会へ申し送ること、④現在利用中の研究大会登録システムconfitが値上げを予定しているため、別のシステムについても並行して検討を行っていくことを報告。
- ・地区研究懇談会：栗田理事より、各地区研究懇談会の開催スケジュールを報告。
- ・倫理委員会：欠席の亀井理事に代わり窪田理事より、1月26日に本学会主催の公開シンポジウム「アイヌ民族と博物館—文化人類学からの問いかけ」が開催され、会場から博物館でなく研究倫理や遺骨問題への質問が出されるなど多少緊張する場面もあったが、それ以上紛糾することなく、無事終了したことを報告。

アイヌ民族に関わる研究についての研究倫理指針へのパブリックコメントが募集されているが、寄せられた意見には、遺骨と倫理指針を区別せずに捉えているもの、文化人類学会と人類学会を混同しているものも見られることを報告。本件についてはマスメディアからの取材申し込みもあり、社会的な注目を集めているが、それらに対しては慎重で適切な対応・説明が必要であることを確認。

各大学・学部等において、研究倫理指針の作成と遵守が求められている現状に関し、学会として文化人類学的研究にふさわしい具体的なガイドラインを示す必要があること、本件については亀井理事を中心に情報収集を行い、次期理事会に引き継ぐことを確認。
- ・学会歴史委員会：飯田理事より、①過去に学会歴史委員会により作成された公開ラン

ク・リストの存在を確認したこと、②神奈川大学日本常民文化研究所で独自に公開可否を判定したリストの存在を確認したこと、③旧民族学振興会資料に関する神奈川大学常民文化研究所との協定の存在を確認したこと、④この協定によると、神奈川大学日本常民文化研究所で保管されている資料原本は常民文化研究所側のルールで公開に供し、学会で保管している電子化資料は学会側のルールで公開に供すこととなっていることを確認したことを報告。

- ・医療者向け人類学教育連携委員会：伊藤理事より、1月25・26日にMEDC（医学教育開発センター）で医学系の教育者向けのワークショップを開催したことを報告。

6. 日本学術会議 文化人類学関係分科会報告

- ・日本学術会議会員の窪田理事より、学術会議の期末にあたり、各分科会で提言をまとめる時期であることを報告。
- ・自然人類学分科会と文化人類学分科会、多文化共生分科会で3分科会共催シンポジウムを3月1日に開催予定であることを報告。
- ・日本学術会議の共同派遣事業で、小泉潤二会員のIUAESへの派遣が予定されていることを報告。

〔審議事項〕

1. 法人化に伴う各種規程について

- ・法人化対応委員長の棚橋理事より、定款に基づき理事会規則案、情報公開規定案、情報公開閲覧申請書案が提示され、閲覧可能な会計資料の種類や事務局での閲覧日は、実情に合わせて検討が必要であること、実際の情報公開に際しては、理事会や業務執行理事で検討しつつ対応を行うことが確認された。審議の結果、理事会規則案、情報公開規定案については、各理事からの意見を踏まえ、文言調整の上、次回理事会へ再提出することとした。また、時限委員会としての法人化対応委員会は今期で終了するが、寄付規定等の整備を行う規定整備委員会を設置し、実状に合わせて各種規定案を作成・修正する任に当たることが確認された。

2. 2019年度事業報告・2020年度事業計画について

- ・木村庶務担当理事より、2019年度事業報告・2020年度事業計画（案）について説明があり、事業報告・事業計画書の様式については、通し番号を振り直すことが提案され、承認された。事業報告・事業計画書の内容については、各種委員会からの修正を踏まえ、次回理事会で再度審議することとした。

2. 2019年度決算・2020年度予算について

- ・石田会計担当理事より、2020年度予算について、昨年度からの変更点を中心に説明があり、意見交換の結果、『文化人類学』の編集事務を委託しているワープ・ワンへの謝金の増額を編集委員会で検討することとした。2019年度決算については、年度内の活動がすべて終了後、次回理事会で再度審議することとした。

3. JRCA 寄稿規程の一部変更について

- JRCA 編集主任の佐々木理事より、寄稿規定の変更について提案があり、承認された。変更箇所は以下の通り。

JRCA 寄稿規程

変更前	変更後
1、原則として投稿者は本学会員であること。ただし、特集の場合、代表者が本学会員の場合は、その他の投稿者が全体の3分の1を超えなければ、非会員でもかまいません。	1、原則として投稿者は本学会員であること。ただし、JRCA 編集委員会がJRCA の趣旨等に照らして適当と認めた場合に限り、非会員の投稿も認めることがある。特集については、代表者が本学会員であること、非学会員の投稿者が全体の3分の1を超えないことを原則とする。

4. 植松東アジア研究基金の募集について

- 植松東アジア研究基金管理委員会委員長の石田理事より、2020 年度の募集要項と申請書の書式が提示され、昨年度からの変更点として、公平性を保つために、申請書のページをずらさないよう注意書きを目立たせるように工夫したことが説明された。審議の結果、今年の募集要項と申請書書式が承認された。

5. 課題研究懇談会の今後について

- 課題研究懇談会担当委員長の森田理事より、次期理事会への申し送りに関する提案について説明があり、課題研究懇談会担当委員会で課題研究懇談会の持つシードマネーとしての側面とネットワークづくりの側面の二つについて検討を行った結果、①シードマネー方式は予算的に厳しいこと、②ネットワーク方式には学会がオーソライズするという利点があることが報告された。学会の JASCA-INFO 等の広報ツールの利用、学会誌への掲載、研究大会でのオフ会など、現状のシステムで可能なサービスの提供から検討していくという視点での意見交換がなされ、審議の結果、②のネットワーク方式を中心に進めていくことを次期理事会へ申し送ることが承認された。

6. 学会賞・学会奨励賞について

- 第 15 回学会賞について、順位付けのある二つの選考委員会案が提出された。選考経緯等の説明にもとづき審議が行われ、理事会では第一案を原案として採用することとし、投票の結果、原案通り承認された。
- 第 15 回学会奨励賞について、選考委員会案が提出された。選考経緯等の説明に基づき審議が行われ、投票の結果、原案通り承認された。
- 両賞の授賞理由書の作成については業務執行理事へ一任することとし、選考結果につ

いては、速やかに学会ホームページへ掲載し、JASCA-INFO で配信することとした。

8. 名誉会員の推戴について

- ・前回理事会にて推薦を募った「日本文化人類学会名誉会員に関する内規」第二条第 2 項に基づく名誉会員の推薦を 2 件受け付けたことが報告され、提出された推薦書にもとづき審議を行った結果、2 名とも第 28 期理事会から社員総会へ推薦を行うことが承認された。

9. ギースの運営体制の変更について

- ・GEAHSS 担当の中谷理事より、2 月 18 日にシンポジウムが開催されること、GEAHSS の運営が幹事学会持ち回り制や事務局分担制の方向で進んでいくこと等が報告され、今後本学会では GEAHSS 担当者を置くが、その任に当たる者は必ずしも理事や業務執行理事に限らないことを確認した。

時間的な制約のため、以下の二つの議案については、後日メール審議とすることとした。

10. 学会に推薦依頼の来ている日本学術振興会賞及びコスモス国際賞の推薦方法について

- ・木村庶務担当理事から説明があり、例年どおり理事から推薦を募った上で審議し、推薦者を確定して推薦を行うことが提案された。

11. 歴史映像資料の利用について

- ・学会歴史委員会委員長の飯田理事より、学会の歴史映像資料の閲覧を行っている国立民族学博物館と神奈川大学常民文化研究所と取り交わすルールの文面について提案がなされた。また、この歴史映像資料について学会員に広く周知するために、学会ホームページ内に「アーカイブズ資料」のページを設けるという提案がなされた。

12. その他

- ・第 7 回理事会は 4 月 25 日（土）開催予定。

以上